

牧師所感： 王の禁令に逆らって天の神に祈る

旧約聖書ダニエル書に登場するダニエルは、「南王国のエホヤキム王（BC 609-598）の第3年に捕囚としてバビロンに移された者」と紹介されている。ダニエルは捕虜であったが王に認められ、バビロン宮殿で働きその実績を認められ、最高の官吏三人の一人として登極したのである。ところが彼は異国人であり、しかも捕虜という外国人であった由に、二人の高官の妬みの対象になった。しかし彼らは訴える口実を探しきれず、ユダヤ人の宗教を盾に訴える材料とした。そして王をそそのかし、一つの禁令を造らせた。その禁令は「すなわち、向こう三十日間、王様を差し置いて他の人間や神に願い事をする者は、誰であれ獅子の洞窟に投げ込まれる」王の禁令を犯す者は獅子の穴に投げ入れるという厳しい禁令であった。しかしその禁令を知りながら「ダニエルは王が禁令に署名したことを知っていたが家に帰るといつもの通り二階の部屋に上がり、エルサレムに向かって開かれた窓際にひざまずき、日に三度の祈りと賛美を自分の神にささげた。」

（ダニエル 6:11）

さて以上の物語は、遠い昔の旧約時代の信仰者の、神に対する信仰の在り方を教えてくれた教訓である。

ところで、今の韓国（筆者の祖国）の政情に対して憂慮せざるを得ない。その誤は韓国の国民の半数が韓国に住んでいながら、北朝鮮の体制に憧れている。筆者はもし北朝鮮の政体になれば、キリスト者として、真実な信仰を保たれないことを憂慮している。故に来る6月3日の大統領選挙には、信仰の自由を認める候補者が選ばれるようになると祈っている。

申牧師の祈り

聖なる神よ、我が祖国である大韓民国を御心に留めて下さい。来る6月3日の大統領選挙において、神を畏れ、民を愛し、世界平和に貢献する候補者をお選び下さい。筆者は日本に住み、日本を愛し、使命として日本に神の祝福がもたらされますように祈ります。主キリストに在って、アーメン。